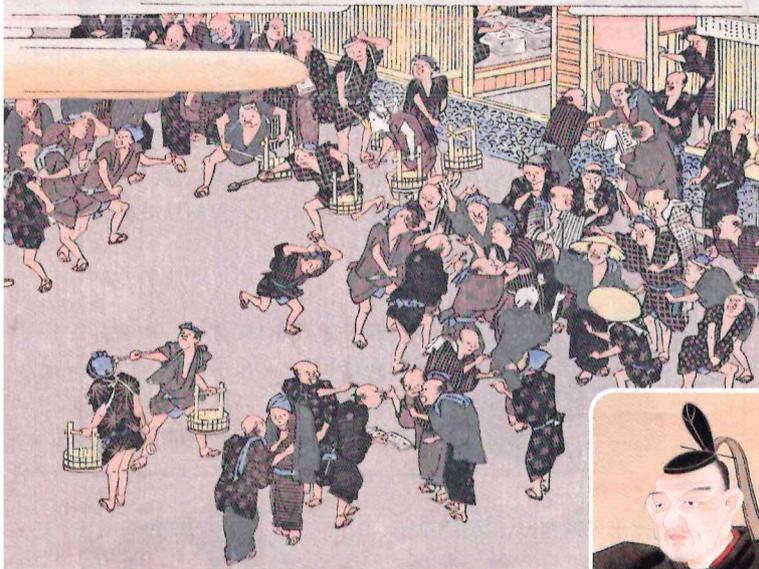




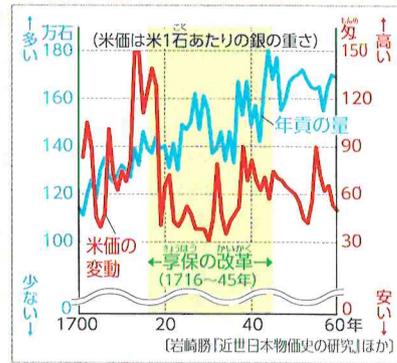
5節の問い なぜ幕府はさまざまな改革を行ったのだろうか。



→2 徳川吉宗(1684~1751) [和歌山市立博物館蔵]



◀1 堂島の米市場 1730年、吉宗は、米の取り引きを活発にするため、大阪の堂島米市場を公認しました。中央にいる人々は、取り引きに熱中する人々に対し、水をまいて終了時刻を知らせています。〔浪花名所図会〕大阪歴史博物館蔵



米の値段が安いと誰が困るのかな。



↑3 幕領から幕府へ納められた年貢の量と米の値段(米価)の変動

# 1 貨幣経済の広まり



徳川吉宗はどのような改革を行ったのだろうか。

学習課題

## 徳川吉宗の政治

幕府の財政は、金銀の産出量の減少や江戸で起きた大火事、富士山の噴火などにより、元禄期を境に悪化していきました。1716(享保元年)年に8代将軍となった徳川吉宗は、幕府の財政の立て直しに取り組み、質素・儉約を掲げて支出を抑えました。収入の中心である年貢米を増やすため、新田開発を進めて豊作や不作に関係なく一定の年貢を取り立てたうえ、一時は参勤交代を短縮する代わりに大名に米を献上させました(上米の制)。

こうした吉宗の政策は、享保の改革とよばれ、この改革で幕府の収入は増えました。しかし、年貢に頼る従来の政策を、より厳密に行うことに重点が置かれていたため、商業の発達による新しい時代には対応しきれず、米の値段は安定しませんでした。さらに飢きんも重なったことから、打ちこわしが起きました。

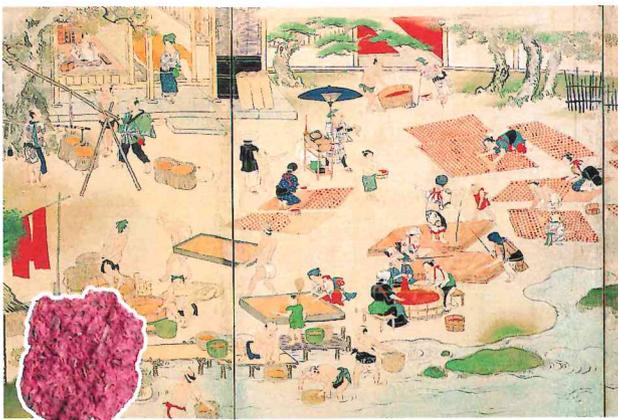
一方、吉宗は政治面の改革にも取り組みました。裁判の件数が増えたことから、それまでの法を整理し、裁判や刑の基準を定めた公事方御定書を制定しました。また、庶民の意見を取り入れる目安箱を設置し、大岡忠相など有能な人材の登用も進めました。さらに、天文学や医学など、日常生活に役立つ学問(実学)を奨励し、それま

### 解説① 貨幣経済

商品の交換において、貨幣がその仲立ちをする経済のしくみを指します。中世以降、物々交換に代わって民衆にも広まり、近世で全国に浸透しました。



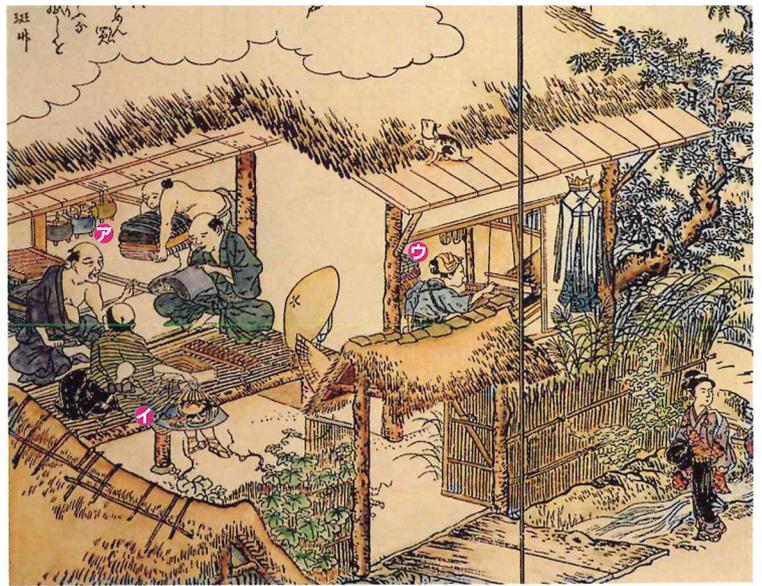
↑4 現在も残る富士山の宝永火口 1707(宝永4)年、大地震から間もなくして富士山は大噴火し、火山灰は江戸まで届きました。厳しい財政状況であった幕府は、全国の村から均等に復興資金を調達しました。



↑**5** 紅餅 [山形大学附属博物館] ↑**6** 紅餅をつくる作業 紅花は、紅餅という染料の材料に加工されます。【『紅花屏風』④ 長谷川コレクション・山形県 山寺芭蕉記念館蔵】

**解説②** 商品作物

商品としてほかの地域へ販売し、現金を得るためにつくられる農作物を商品作物といいます。多くは大阪に一度集められ、江戸などで売られました。良い商品作物をつくるためには、干鰯などの肥料の購入が必要となりました。



↑**7** 問屋制家内工業による綿織物の生産と商品の買いつけ【『河内名所図会』彩色は八尾市立歴史民俗資料館】

資料活用 図7のなかの⑦〜⑨は、下のA〜Cのどれにあたるだろうか。  
 A 織物を買いに来た商人 B 商人と売り渡しの商談をする農家の主人  
 C 部屋のなかで機を用いて織物を織る女

で禁止していた漢文に翻訳された洋書について、輸入の制限を緩めました。人々は、便利な製品や必要な知識をすぐに取り入れ、それらを独自に改良していきました。

**工業の発展と変わる農村**

18世紀になると、各地で、綿花や紅花・藍などの特産物が、商品作物として積極的につくられるようになり、幕府や藩もそれを支援しました。商品作物の生産者は、それらを買いつける商人(問屋)と結びつき、問屋から原料や道具などを借りて、家内で手工業による商品づくりを行うようになりました。これを問屋制家内工業といいます。地方には、上方などの

先進的な技術も伝わり、紙や綿織物といったさまざまな商品が大量に流通するようになりました。また、17世紀に絹織物や鎧の素材となるため輸入が多かった生糸は、桐生(群馬県)や上田(長野県)などで国産化が急速に進み、国内に流通し始めました。

農村では、農具・干鰯・綿織物などを買ったり、作物を売ったりして、貨幣を使う機会が増え、商人との取り引きに成功して豊かになる農民も現れました。豊かな農民のなかには、貧しい農民の土地を集めて地主になる者もいました。一方、土地を失った農民は、地主から耕作地を借りて小作料を納める小作人になったり、都市に出稼ぎに行ったりするようになり、農民の間に格差が生まれました。

① 享保の改革では、飢きに強い甘藷(さつまいも)の栽培が奨励されました。また、葉になる朝鮮人蔘の国産化(和人蔘)が進められ、全国で植物調査も行われました。

**公事方御定書**

- 20条 関所を通らずに山を越えたり、ひそかに関所を通ったりした者は、その場ではりつけにする。
- 28条 領主に対して一揆を起こし、集団になって村から逃げ出したときは、指導者は死刑、名主(庄屋)は主な都市などから追放とする。
- 71条 低い身分の武士であっても、町人や百姓から身分をわきまえていない悪口を言われてその者を切り殺した場合、詳しく調べた上でそれが事実ならば、無罪とする。

【一部要約・抜粋】



確認しよう

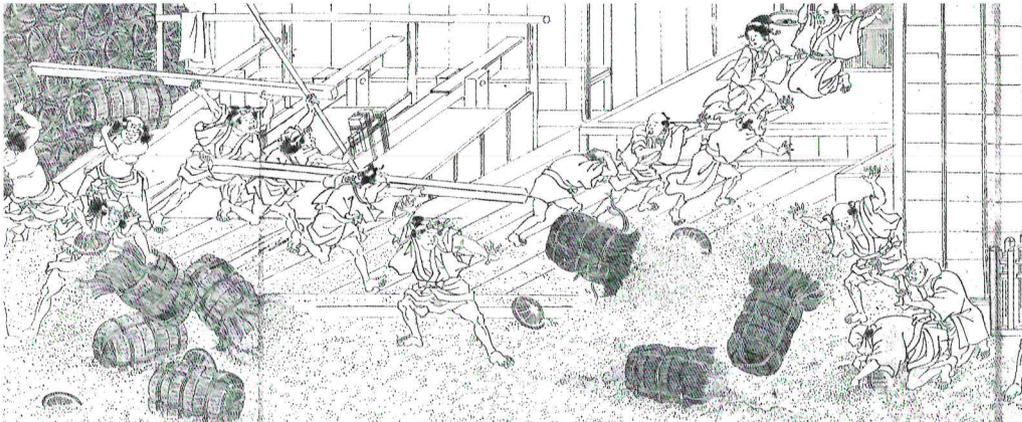
吉宗が幕府の財政立て直しのために行った政策を、本文から書き出そう。



説明しよう

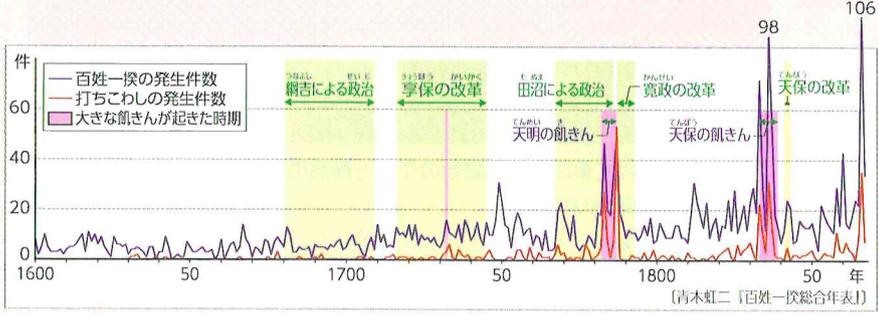
吉宗の改革と商工業の発展は、社会にどのような影響を与えたのか、説明しよう。

縄文
1 弥生
2
3
4
5 古墳
6
7 飛鳥
8 奈良
9
10 平
11 安
12
13 鎌倉
14 南北朝
15 室町
16 戦国
17 安土・織田
18 江戸
19 明治
20 大正
21 昭和
22 平成
23 令和

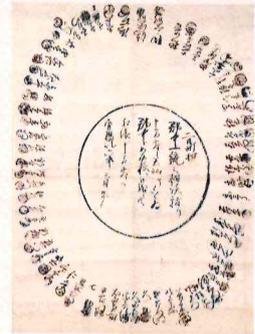


←1 米商人に対する打ちこわしの様子  
 [伝 細谷松茂作『幕末江戸市中騒動図』部分  
 東京国立博物館蔵] 小池公

打ちこわしや一揆は、  
 どのような時に  
 起こったのかな。



←2 百姓一揆と打ちこわしの発生件数  
 →3 牽連判状 一揆の参加者が連帯して責任をとることを表すため、円状に署名しています。[岐阜県白山文化博物館提供]



## 2 繰り返される要求と改革

5節の問い なぜ幕府はさまざまな改革を行ったのだろうか。

百姓の要求と財政難に対して、幕府はどのような対応を行ったのだろうか。

学習課題

百姓一揆と打ちこわし 百姓は、天災などの被害で年貢が納められないとき、年貢を減らしてくれるように領主に要求しました。

**地域史** 財政改革に成功した米沢藩

かつて120万石もの高がかった上杉氏は、治憲が藩主となったときには15万石となっていました。家臣を減らさなかったため、常に財政難がありました。

そこで治憲は、大規模な開墾を行って桑や漆などの商品作物(→p.147)の栽培を奨励しました。さらに、織物業を導入して藩内の産業を盛んにし、江戸で商品を販売することで収入を増やしました。こうした産業の発達や倹約により、藩の財政は改善し、諸藩の改革の先駆けとなりました。

また飢きんに備え、米の貯蔵や、食用として鯉の養殖を領民に奨励しました。



→4 上杉治憲(鷹山)  
 (1751~1822)「なせば成る なさねば成らぬ何事も 成らぬは人のなさぬなりけり」という言葉を残しています。

また、不正を行う役人の交代を要求することもありました。領主側が訴えを受け入れることもありましたが、訴えが退けられると、百姓は一揆を起し(百姓一揆)、城下へ押し寄せました。やがて幕末のころになると、百姓一揆は暴力を伴うようになりました。都市でも、米を買い占めた商人に対して、貧しい人々が打ちこわしを起しました。これらの背景には、貨幣経済の発達で貧富の差が生まれ、社会の基本である身分制が揺らいだ点がありました。幕府は身分の秩序を引き締める法令を出して、体制の維持を図りました。

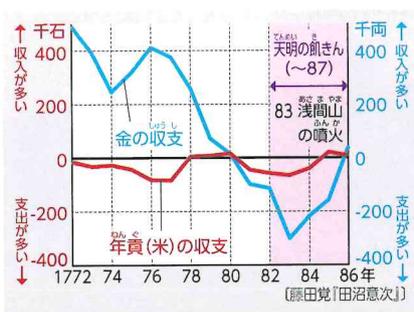
田沼意次の政治 18世紀後半に老中となった田沼意次は、年貢だけに頼る従来の政策を転換し、発展してきた商業に重点を置いた政策で、財政の立て直しを図りました。

田沼は、商品の流通を江戸へと集め、商工業者たちの株仲間の営業権を認めて税を納めさせました。また、長崎から銅や俵物とよばれる海産物を盛んに輸出して金・銀の輸入を行い、新たな通貨(南錠二朱銀)で金と銀の取り引きをやすくし、商業の活性化を促す

[上杉鷹山像|山形県 米沢市上杉博物館蔵]



↑**田沼意次**(1719~88)  
[静岡県 牧之原市史料館蔵]



←**6**田沼の政治期の財政収支 米と金を合わせると、当初は黒字になりました。**資料活用** 米と金の収支の変化には、どのような違いがあるのだろうか。



←**8**松平定信 (1758~1829)  
吉宗の孫で白河藩松平家の養子となり、藩政で実績を挙げました。[三重県 鎮國守國神社蔵]



↑**9**義倉 米を保存するため、義倉が各地に建てられました。写真の義倉は、1857年、町人の主導で建てられたものです。[愛知県 西尾市教育委員会提供]

→**7**出島での輸出用の銅検査 18世紀は銅が輸出品の中心でしたが、産出が減ってきたため、代わりにふかひれや干したなまこなどの俵物が輸出されました。[「唐蘭館絵巻」長崎歴史文化博物館蔵]



ことで収入の拡大に努めました。さらに干拓工事や蝦夷地の開拓にも乗り出しました。しかし、幕府中心の経済政策や賄賂の横行への批判が高まり、そのなかで、東北地方の冷害や浅間山の噴火などによる天明の飢きんで、百姓一揆や打ちこわしが数多く起こるようになったため、田沼はその責任をとり、老中を退きました。

### 松平定信の政治

田沼の後に老中となった**松平定信**は、徳川吉宗の政治を理想として質素・儉約を掲げ、荒れた農村

と幕府の財政の立て直しや都市での飢きん対策に取り組みました。

江戸などの都市に出稼ぎに来ていた者を村に帰し、商品作物の栽培

を制限して米などの穀物の栽培を奨励したほか、飢きんに備えて米を蓄えさせました。江戸では旗本や御家人の生活難を救うため、町人からの借金を帳消しにしました。また、秩序の乱れを正して幕府

の権威を高めるため、庶民が読む出版物の内容を取り締まり、さらに幕府の学校で朱子学以外の儒学を禁止して、試験による人材登用

も進めました。軽犯罪者の更生のための人足寄場もつくりました。

定信が進めた政策は、寛政の改革とよばれています。改革の厳しさへの批判もありましたが、定信が老中を辞任したあとも、19世紀初めまで幕府の基本政策となり、特に飢きんへの備えは幕末まで

有効に働きました。一方、このころ通商を求めてロシア船が接近するようになり、幕府は海防への対策にも迫られました。

① 輸入した金銀をもとにつくった南鐐二朱銀は、8枚で金貨1両に交換することができました。重さをはかって価値を決める従来の銀貨に比べ、金貨と銀貨の交換が容易になりました。

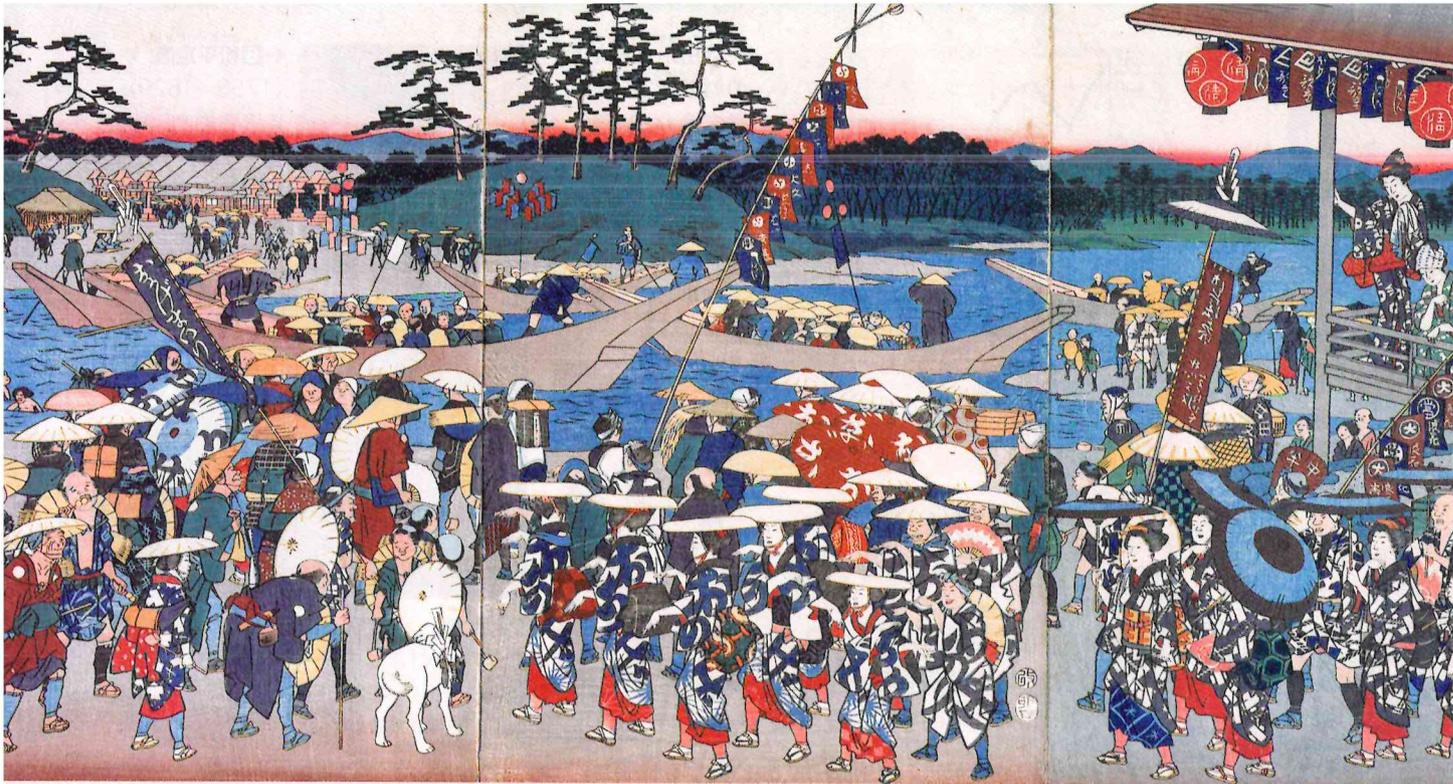
### 歴史プラス 幕府と朝廷の関係のゆらぎ

寛政期になると、儀式や御所の再建などで朝廷の権威の復活に積極的に取り組んだ光格天皇が現れました。それまでの幕府との関係にとられない新たな朝廷の動きは、幕府と朝廷との関係にきしみを生み始めました。また、幕府は朝廷から政治を預かっているという考え方が広まるようになりました(→p.183)。

確認しよう 百姓が領主に対して要求したことを、本文から書き出そう。

説明しよう 幕府が繰り返し改革を行わなければならなかった理由を、田沼意次と松平定信の政策方針を踏まえて、説明しよう。

純文
1 弥生
2
3
4
5 古墳
6
7 飛鳥
8 奈良
9
10 平安
11
12
13 鎌倉
14 南北朝
15 室町
16 戦国
17 安土松山
18 江戸
19 明治
20 大正
21 昭和
平成
令和

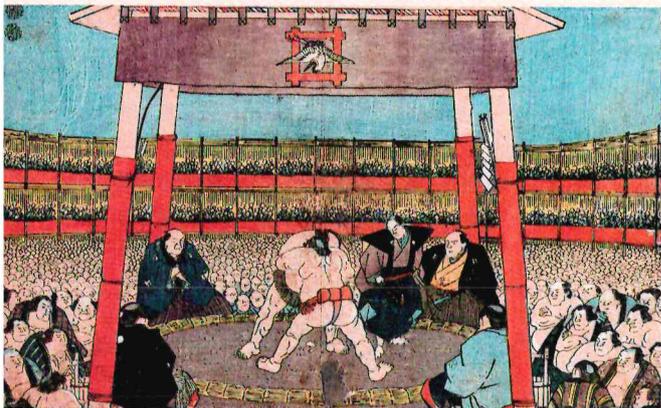


↑**伊勢参り** 庶民の自由な旅行は原則禁止されていましたが、寺社への参詣という名目で各地をめぐる旅をすることができました。なかでも伊勢神宮は一生に一度は行きたい庶民の憧れでした。この絵には、60年に一度しかない、とてご利益のある「おかげ年」の様子が描かれていて、詣でる人でとてもにぎわっていることがわかります。【歌川(安藤)広重作『伊勢参宮 宮川の渡し』神奈川県立歴史博物館蔵】

どのような人がお参りに来ているかな。



## 江戸っ子を夢中にさせた娯楽と浮世絵



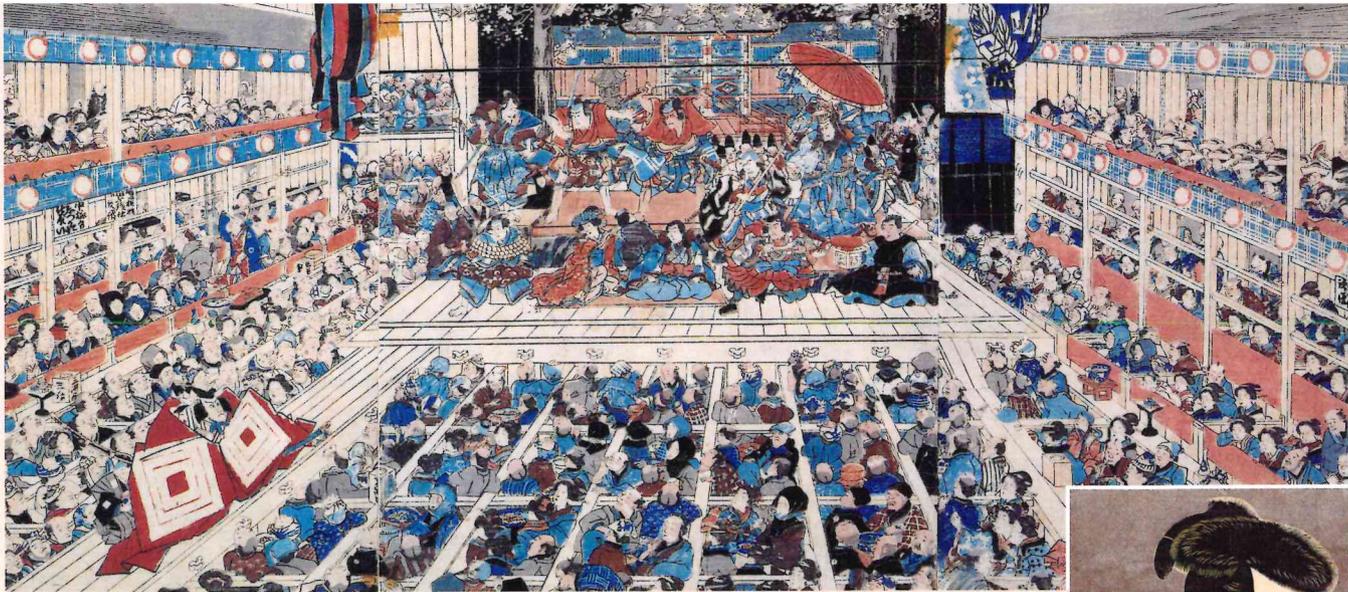
↑**相撲の取り組み** 相撲は、初め朝廷の年中行事でしたが、江戸時代になると、大名が支援するお抱えの力士たちを競わせるようになりました。その後、興行が定期的に行なわれることで、庶民の娯楽として人気を得ました。相撲を職業とする人々も現れ、信濃(長野県)出身で松江藩(島根県)お抱えの雷電など、人気力士も誕生しました。【歌川(安藤)広重作『東都两国回向院境内相撲の図』】

## 歴史プラス+ 江戸の人々の盛り場となった火除地

江戸は木造家屋が密集し、火災が発生すると被害もすぐに拡大しました。幕府は火災の拡大を防ぐため、火除地とよばれる、建物を設けない広場を町のあちこちに置きました。特に橋は避難ルートとして重要な場所なので、橋のたもとには大きな広場ができました。広場には、仮設の小屋が建てられて興行などが開催され、飲食や物の売買ができる繁華街になりました。

↓**两国橋で行われた花火大会**【葛飾北斎作『江都两国橋夕涼花火之図』】





↑4歌舞伎の劇場 常設の芝居小屋が設けられ、質を高めるさまざまな工夫と演出が行われたことで、歌舞伎に対する人気はますます高まりました。観客は、一日中、飲食や会話をしながら歌舞伎を楽しみました。〔三代目歌川豊国作「踊形容江絵栄」東京都 江戸東京博物館蔵〕



←5江戸の本屋の様子 本屋では、浮世絵や長編小説などの多くの出版物が書棚に並び、ベストセラーも生まれました。安い値段で本を貸す店も増え、庶民に至るまで広く読まれるようになりました。〔京都外国語大学付属図書館蔵〕



→6東洲斎写楽が描いた歌舞伎の役者絵〔東京国立博物館蔵〕

### 3 江戸の庶民が担った化政文化

5節の問い なぜ幕府はさまざまな改革を行ったのだろうか。

① 幕府は、貨幣に含まれる金・銀の量を減らすことで、貨幣の量を増やしていました。

**俳諧**

われときて遊べや親のなはずめ  
雪とけて村いっばいの子どもかな  
小林一茶

**川柳**

春の海ひねもすのたりのたりかな  
菜の花や月は東に日は西に  
行く春や重たき琵琶の抱きごころ  
与謝蕪村

**狂歌**

白河の清きに魚も住みかねて  
もとのにござりの田沼忍しき  
これ小判たった一晚いてくれる  
孝行のしたい時分に親はなし

〔白河〕は白河藩(福島県)の藩主であった松平定信を、〔田沼〕は田沼意次のことを指しています。

### 江戸時代後半には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。

**庶民による化政文化**

田沼意次による、経済の中心を江戸に移す政策に伴い、文化の中心も上方から江戸に移りました。このころ、貨幣の改鑄によって多くのお金が回り、大飢きんも起こらなかったため、裕福な町人だけではなく庶民も、手にしたお金で娯楽を楽しむようになりました。19世紀初めの文化・文政期を中心に花開いた、江戸の庶民による文化を化政文化といいます。

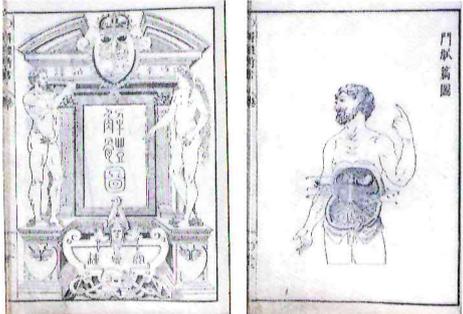
歌舞伎はさらに人気を集め、落語を楽しむ寄席や相撲が庶民にも広く親しまれました。また、幕府の政治や庶民の生活を風刺してよむ川柳や狂歌が流行し、俳諧では情景を巧みに表現した与謝蕪村や農民の感情をくみとった小林一茶らが評判を得ました。

印刷技術の発達を背景に、浮世絵のなかに錦絵とよばれる多色刷りの版画が登場し、歌舞伎の人気役者を描いた東洲斎写楽や美人画を描いた喜多川歌麿らが活躍しました。町人だけでなく、生活にゆ

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21		
総文	弥生			古墳		飛鳥	奈良		平安			鎌倉	南北朝	室町	戦国	安土・松山	江戸	明治	大正	昭和	平成	令和



←7 葛飾北斎が描いた風景画 北斎は、大胆な構図と色使いで、富士山の姿をさまざまな形で描きました。『富嶽三十六景 神奈川沖浪裏』静岡県 MOA美術館蔵]



↑8 解体新書 杉田玄白と前野良沢は、人体解剖の見学の際、オランダの医学書と見比べ、その正確さに驚き翻訳を決意しました。見学のとき、優れた技術と知識で彼らに解剖の説明したのは、差別された身分の人でした。当時の医学はこうした人々にも支えられていました。[兵庫県 神戸市立博物館蔵]

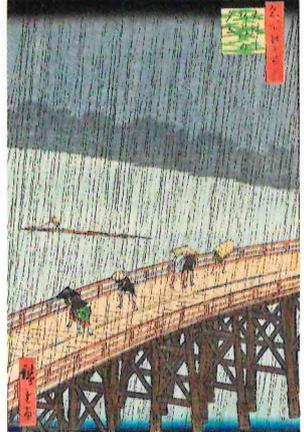


↑9 杉田玄白(1733~1817) [東京藝術大学附属図書館蔵]

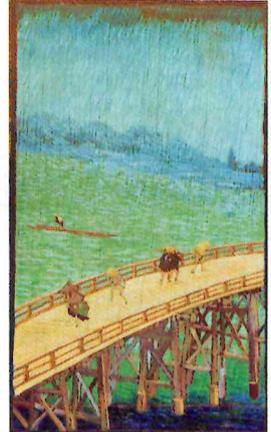
小地公

歴史プラス+ 世界に驚きを与えた浮世絵

江戸の一般の人々やその生活風景を題材として、多色刷りで印刷された浮世絵の描く世界は、当時のヨーロッパでは例のないものでした。さらに、日本の浮世絵の大胆な構図やコントラストをはっきりとさせるような色使いは、ゴッホやモネなどのヨーロッパの絵画にも大きな影響を与え、「ジャポニスム」とよばれました。



↑10 歌川(安藤)広重が描いた浮世絵 [東京国立博物館蔵]



↑11 ゴッホが描いた油絵 [オランダ ゴッホ美術館蔵]

未来に向けて ワクチン接種の始まり 平和・安全

世界中で流行した天然痘(→p.109)は、日本でもたびたび多くの犠牲者を出しました。18世紀末にようやく、種痘とよばれる、ワクチン接種による予防法が見つかり、1849年長崎へワクチンが輸入されました。この時、佐賀藩では藩主一族が率先して種痘を行い、接種に成功したことで各地に広まりました。種痘は、接種した子どもから種痘に必要な種をとり、それを次の子どもに植えるリレー方式でつないでいきました。

→12 息子にワクチンを接種させる佐賀藩主 鍋島直正 [佐賀県医療センター 好生館蔵]



とりが生まれた百姓も寺社参詣などの旅に出かけるようになり、葛飾北斎や歌川(安藤)広重は街道などの風景画を描いて人々の旅心をかきたてました。また、本も数多く印刷され始め、旅先での出来事や名所を描いた十返舎一九の『東海道中膝栗毛』は、旅の案内書として評判となりました。曲亭(滝沢)馬琴の『南総里見八犬伝』などの長編小説も多くの人々に読まれました。こうした印刷物や旅先での人々の交流によって、江戸の文化は地方にも伝わっていきました。

国学と蘭学

武士の学問として儒学が奨励されていましたが、しだいに仏教や儒教が伝わる前の日本古来の精神に学ぼうとする国学がおこり、本居宣長が『古事記伝』を書いて国学を大成させました。国学は天皇を尊ぶ考え(尊王)や当時の社会を批判する考えに結びつき、幕末の尊王攘夷運動に影響を与えました。

一方、徳川吉宗が漢訳洋書の輸入禁止を緩めたことで、西洋の学問を研究する蘭学が盛んになりました。江戸では医師の杉田玄白や前野良沢らがオランダ語の人体解剖書を翻訳して『解体新書』を出版し、平賀源内は日本で初めて発電機や寒暖計をつくりました。上方

全国を歩いて正確な地図を作製

忠敬は、佐原(千葉県香取市)の豪商伊能家の養子となった後、商人として成功し、村名主も務めました。隠居した後、56歳のときに幕府の許可を得て測量の旅に出発し、約17年かけて、北は蝦夷地から南は九州の屋久島まで、各地を測量して歩きました。測量には、隠居後に学んだ天文学の知識が生かされました。



【大日本沿海輿地全図】  
(小図) 東京国立博物館蔵

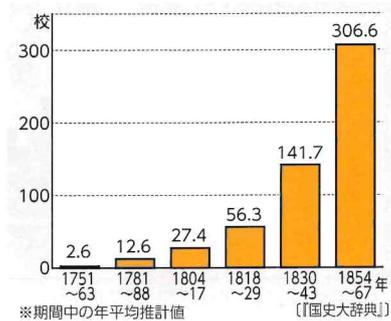


↑**13** 伊能忠敬の地図 正確さから、明治以降もこれに基づいて地図がつけられました。北海道の地図の作製には間宮林蔵(→p.176)も貢献しました。



↑**14** 寺子屋 僧侶や浪人が先生になり、町人や百姓の子どもに、個人ごとの課題を与えて教えていました。子どもたちは、8~9歳ごろから通い始め、女性の先生もいました。【一寸子花里作『文学万代の宝 始の巻・末の巻』】**小地公**

→**15** 寺子屋の開業数 江戸時代後期に寺子屋が増加した動きは、商業の発達や、村の運営に学問が必要とされたことが背景にありました。



の学者たちは私塾をつかって町人や百姓を交えて学び、長崎ではオランダ商館の医師シーボルトが蘭学者や医学者を育てました。

西洋の知識は測量術を進歩させ、伊能忠敬はその技術をもとに正確な日本地図を作製しました。測量術や天文学が急速に進歩した背景には、外国船の来航により日本の地図を正確につくる必要があったことや、測量の基礎技術である和算が広まったこともありました。

広がる教育

18世紀ごろから、町人や百姓の間で教育が盛んになり、寺子屋が増えました。寺子屋では商売や農村の運営のために「読み・書き・そろばん」が学ばれ、幕末には文字

を読める人の割合は世界的にも高い水準となりました。さらに私塾が各地にできて、読書を通じた仲間組織も結成され、儒学・蘭学・国学を深く学ぶ裕福な町人や農民も登場しました。また、諸藩も藩

政改革のなかで教育を重視し、藩に仕える武士の子弟のため、藩校をつかって人材を育成しました。こうして、近代へ続く教育の土台

が日本社会に出来上がりました。



↑**16** 開谷学校 岡山藩の池田光政(1609~82)は、積極的に儒学の教えを藩政に取り入れられました。そして、武士を対象とした藩校以外にも、庶民を対象とした開谷学校をつかって、武士から庶民に至る藩内のあらゆる人々への教育に努めました。【岡山県(公財)特別史跡旧開谷学校顕彰保存会提供】

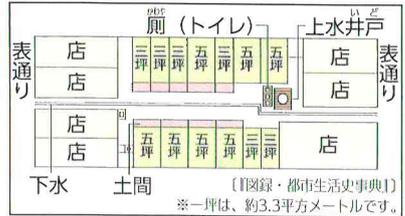
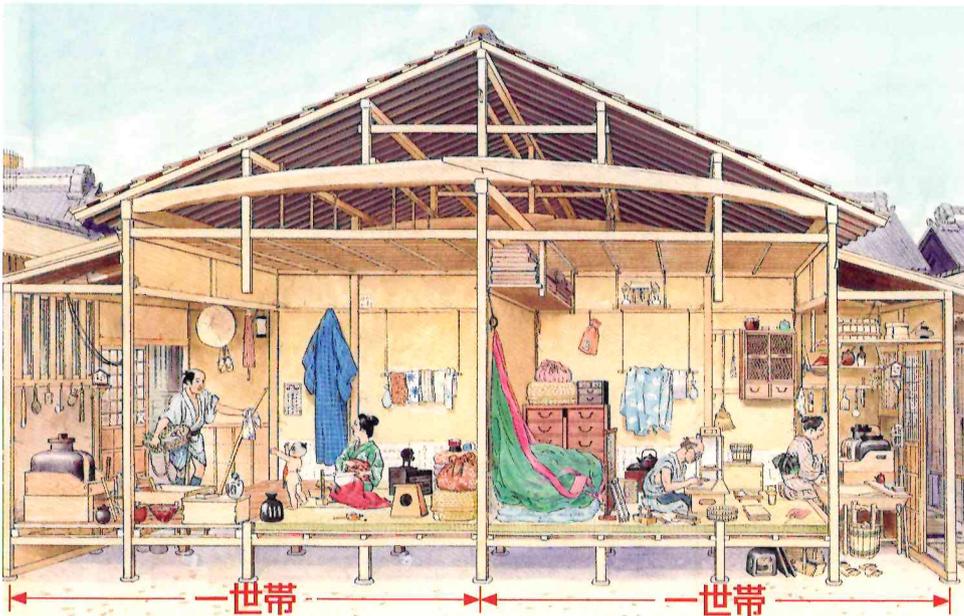
**印刷技術が人々に与えた影響**  
確認しよう を、本文から書き出そう。

**元禄文化から化政文化へ、文化の特色はどのように変化したのか、担い手や時代背景と関連づけて説明しよう。**  
説明しよう

縄文  
弥生  
古墳  
飛鳥  
奈良  
平安  
鎌倉  
南北朝  
室町  
戦国  
安土桃山  
江戸  
明治  
大正  
昭和  
平成  
令和

## 1 人口増加に対応した人々の暮らし

→2長屋の一部



←1長屋の様子 江戸が持続して発展するためには、日々の食料品や日用品を売る小規模な商人や、力仕事をする人々が多く必要とされ、長屋には、そのような人々が暮らしました。長屋は、表通りに面している店の裏に置かれました。江戸は火事が多かったこともあり、住人は家具をあまりもたない生活をしていました。また、厩(トイレ)・ごみ置き場・上水井戸なども共同で使用し、共同生活のなかで、住人の間に、連帯感が育まれていきました。【画：歴史復元画家 中西立太氏】

**未来に向けて** 日常生活を支えた江戸の上水道

情報・技術

百万都市の江戸に住む人々の生活を維持するためには、飲料水の確保が不可欠であったため、玉川上水や神田上水などの上水道がつけられました。当時の上水道は、池などを水源とした水が、地中に埋められた木樋(配水管)のなかを流れるしくみでした。利用者は上水井戸へつるべを下ろして、水をくみ上げました。都市の拡大とともに、新たな上水道がつけられ、江戸の町を支えました。



↑3上水井戸を使う様子



↑4江戸の上水道 玉川上水は西に流れる多摩川から、神田上水は井の頭池などから、江戸の各所に水を運びました。

### 1 江戸はどのように発展したのかな？

徳川家康が関東に移ってきた、1590年ごろの江戸は、アシという草が生い茂る湿地帯でした。家康が江戸に幕府を開くと、幕府の政治の中心となる江戸のまちづくりが本格的に開始されました。

まず、将軍が政治を行う場であるとともに、将軍の住まいでもある江戸城の建設が始まりました。そして、江戸城を中心に町の整備も進められました。江戸城の周囲には堀がめぐられ、湿地や海岸を埋め立てて造成された土地には、道路や水道をはじめ、藩の大名屋敷や町人の住居が

次々に建設されました。また、水害や火災などに対しても強いまちづくりが進められるなかで、江戸には全国から多くの人々が集まるようになり、町は急速に発展していきました。そして、18世紀初めには、100万人を超える大都市へと成長しました。

江戸の住人のおよそ半分を占める町人は、江戸の2割程度の土地に住んでいたため、多くは長屋とよばれる借家で共同生活を送っていました。また、長屋で暮らす下級の武士も少なくありませんでした。これらの長屋の住人の生活は、落語の題材にもなっています。



疑問

当時、100万人を超える人々が住む世界有数の大都市だった江戸は、どのようにして、このような大きな都市へと発展していったのかな。また、これほど多くの人々が住んでいた江戸の生活環境は、どうなっていたのかな。

主な関連事項と関連ページ

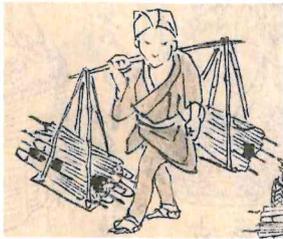
江戸幕府 p.124 町人 p.137  
「将軍のおひざもと」 p.140~141

## 2 多様な職業が支えたリサイクル都市

↓江戸の町の様子 現在の日本橋近くの様子を描いています。表通りに入る多様な職業の人々が確認できます。



【『熙代勝覧』ドイツ ベルリン国立アジア美術館蔵】



↑6 古傘買い [国立国会図書館蔵]



↑8 長屋での糞尿くみ取り 糞尿や灰は回収されて肥料として百姓が使いました。この取り引きは、長屋を管理する大家の収入の一つとなりました。糞尿の価格が上昇すると、百姓が値下げを求めたこともあり。【『滑稽讀栗毛』愛知県 名古屋市蓬左文庫蔵】



←7 古着売り [国立国会図書館蔵]

未来に向けて

江戸のごみを利用した農業

環境・エネルギー

江戸時代半ば、砂村(現在の東京都江東区)では、野菜の促成栽培が行われました。江戸の町から出るごみを堆積し、発酵の際に出る熱を利用して早めに種をまくことで、早めの収穫を行いました。砂村の野菜は、初物好きの江戸の人々の間で大人気となり、高値で取り引きされ、ブランド野菜として将軍への献上品にもなりました。また、砂村のねぎやきゅうり、にんじんなどの野菜の品種は各地で栽培されるようになりました。



→9 砂村の品種から生まれたねぎ

## 2 江戸の生活環境は、どうなっていたのかな？

江戸の人々は物を大切に、日々の生活のなかで、リサイクルを行っていました。壊れたものは修理に出したため、捨てるものがほとんどなかったといわれています。そのなかで、紙くず買い・古傘買い・古着売りなど、リサイクルを専門に扱う職業も生まれました。例えば、紙くず買いが集めた古紙はすき返され、新しい紙として繰り返し使われました。子どもたちも、手習いで使う紙に何度も重ね書きをして使いました。また、食物などの生ごみは、永代島などの沿岸部の干潟の埋め立てに使われました。埋立地には

新たな町がつくられ、新田開発も行われました。

一方、人々の糞尿は、安全に使用できるよう肥だめで熟成させた後、江戸近郊での野菜づくりに、肥料として利用されました。江戸近郊の農民は、長屋などにある厠(トイレ)にたまった糞尿をお金や野菜と交換して手に入れました。当時のヨーロッパの諸都市では、糞尿を窓から捨てており、衛生環境が問題視されていましたが、江戸では肥料として活用されたため、町全体が清潔に保たれました。

# アクティビティ に挑戦 A

## 赤穂事件を考察する



ワークシート

### 見方・考え方

江戸時代の人々の考えや、幕府の方針に着目しよう。

### 学習課題

徳川綱吉(→ p.137)の治世下、旧赤穂藩の浪士(赤穂浪士)たちが主君の仇討ちをした事件(赤穂事件)は、当時、大きく注目され、赤穂浪士は人々から賞賛されました。この事件の処罰の方針をめぐる意見から、当時の政治や社会の特色を考察しましょう。

## テーマ 仇討ちを果たした赤穂浪士に対し、江戸幕府は、どのように対処したのだろうか。

### 赤穂事件とは…

1701(元禄14)年、幕府の重要な行事の当日に、その担当であった赤穂藩主の浅野内匠頭長矩が、同じく担当していた吉良上野介義央を突然切りつけました(松の廊下事件)。この責任をとるため、浅野内匠頭長矩は幕府から即日切腹を命じられ、赤穂藩も改易(廃藩)となりました。残された赤穂浪士は翌年、吉良邸内に討ち入り、吉良上野介義央を討ち取りました。人々は、浪士たちを、主君の仇討ちを果たした「忠臣の義士」と褒めたたえました。



→ 吉良邸への討ち入り [葛飾北斎 作「仮名手本忠臣蔵」江戸東京博物館蔵]

### ●幕府内の意見

#### 5代将軍徳川綱吉は迷っていた…

※忠臣…主君に忠義を尽くす臣下 孝子…親孝行な子

もし、主君の仇討ちを許さないというのであれば、古くからの道理にも背き、忠臣や孝子の心を傷つけることになる。さらには、「学問・武道と忠義・孝行に励む」とした武家諸法度にも背くものである。浪士たちを厳罰にするのは、果たして適切なことなのだろうか。



#### 幕府の評定所<sup>※</sup>の意見

※幕府の政治と裁判を行う機関



浪士たちは主人の遺志を継いだ忠臣です。大勢で討ち入ったのはその志を遂げるためのしかたがない手段です。しばらくは大名預けとして何年か後に判決を出すのがよいと考えます。

#### 幕府の文教をつかさどった

儒官 林信篤の意見



主君の仇討ちを果たした彼らは、武士道を実践して大いに褒められるものです。しかし、彼らが天下の法を破ったことは間違いありません。これは道理に背くものです。

#### 綱吉の老中に仕えた儒学者

荻生徂徠の意見



浅野が吉良を殺そうとしたのであって、吉良が浅野を殺したわけではありません。そのため、吉良は浅野の仇ではありません。浅野は、一時の怒りからされて吉良を殺そうとしたので、浪士たちの行動は、主君のこの「邪志」を継いだものであって、忠義とはいえないでしょう。 ※間違った思いや考え

**TRY 整理しよう** ①幕府内の意見と資料を読んで、浪士に対して助命する意見と厳罰にする意見を、その根拠を示して整理しよう。

	主な意見	その根拠
助命		
厳罰		

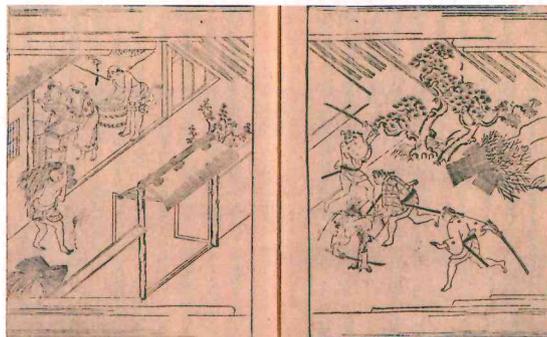
当時の人々の考え方は、現在の私たちと同じとは限りません。当時の人々の考え方を理解するには、当時の人々の言葉などの資料をもとに、当時の政治や社会の特色を踏まえて、当時の人々になったつもりで考えることが大切です。

資料 赤穂事件をめぐる動きや背景

主な処罰

赤穂藩主浅野内匠頭長矩…	即日切腹
赤穂藩…	改易(廃藩)
吉良上野介義央…	処罰なし

←2 松の廊下事件に対する主な処罰 切腹は、死罪ではありませんが、武士の礼になかった処罰と考えられていました。



↑4 仇討ちを題材にした本の挿絵 江戸時代では、喧嘩両成敗の慣例から、一定の手続きをとることで、仇討ちが認められることがありました。仇討ちは、親族が行うことが一般的でした。人々は仇討ちに大きな関心を持ち、物語や歌舞伎の題材にもなりました。【『元禄會我物語』 国立国会図書館蔵】

赤穂浪士をよんだ歌

たのもしや内匠の家に内蔵ありて  
武士の鏡を取り出しけり

頼もしいことではないか。内匠の家(浅野内匠頭)に内蔵(大石内蔵助)があって、武士の鏡(鑑、手本)を取り出してきた。

←3 歌からは、江戸の人々のうち入りに対する共感が読みとれます。当時の人々は、喧嘩両成敗が武士の慣例であるのに、吉良は切腹しなかったことに対して、武士らしくないと思っていたともいわれています。

武家諸法度 天和令

- 一、学問・武道と忠義・孝行に励み、礼儀正しくふるまうこと。
- 一、謀反を計画したり、仲間(徒党)を集めて行動を起こす誓約を結ぶことを禁止する。
- 一、喧嘩や口論はしないようにし、私的な争いを禁止する。  
もし、やむを得ない理由があれば、奉行所に届けて指示を待つこと。

←5 武家諸法度の方針変更(天和令) 徳川綱吉は、それまでの武家諸法度の最初の一文であった「文武弓馬の道に、ひたすら励むこと」(→p.125)を改め、「忠義と孝行に励むこと」を強調しました。このほかにも儒学を重視するなど、学問や礼節を重んじる政治へと転換を行いました。

資料活用 p.125の武家諸法度の内容と比較してみよう。

考えよう

②「整理しよう」を踏まえて、あなたが将軍であったら、どのような処罰を下すだろうか。以下のいずれかを選び、当時の資料に基づいた判断の根拠を明確にして書こう。

助命 ・ 厳罰 ・ その他
赤穂浪士たちの処分は、
その根拠

表現しよう

対話

- ③ 下の資料の、実際の幕府の処罰を読み、あなたの考えとどの点に相違があったのか、確認しよう。
- ④ なぜ、幕府は浪士たちに、全員「切腹」という処罰を決定したのだろうか。グループになり、その理由を綱吉が目指した政治の考えを根拠に、グループの人に説明しよう。

幕府の赤穂浪士に対する処罰

浪士たちは、主人の仇に報いると主張して、浪士たちで徒党を組み、吉良邸へ押し込み、飛び道具などまで持参し、吉良義央を討ったことは、幕府を恐れない行動で、法に背いた行為である。これによって切腹を命じる。



4章の問い

- 全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか。

学習事項の確認

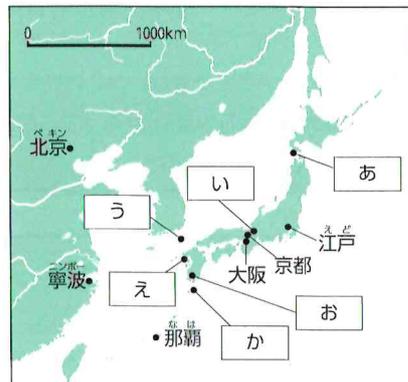
知識

世紀	時代	主な出来事(政策)	文化	国際	朝鮮	中国
16	戦国	1543 鉄砲の伝来(A種子島)	・南蛮文化キリスト教の伝来、活版印刷 ・茶の湯(わび茶)・かぶき踊り ・城(天守、大広間、屏風絵)	南蛮貿易 ↓ 朱印船貿易 ↓ 貿易統制	明	中国
		織田信長の台頭(楽市・楽座)				
	73 室町幕府の滅亡					
	90 豊臣秀吉が全国統一(検地・刀狩)					
17	安土桃山	文禄の役・慶長の役	桃山文化 ↓ 元禄文化	朝鮮通信使 ↓ 外国船の接近	朝鮮	中国
		1600 B関ヶ原の戦い				
	03 徳川家康による江戸幕府の成立					
	薩摩藩が琉球を征服(武家諸法度)					
18	江戸	幕藩体制の確立	C長崎・D対馬 E薩摩・F松前 ↓ 化政文化	蘭学の発展 ↓ 寺子屋の増加 ↓ 国学の発展	清	中国
		37 島原・天草一揆 ~ 38 (キリスト教禁止)				
	69 シャクシャインの戦い					
	徳川綱吉による政治(文治政治)					
19	江戸	五街道・航路の整備	蘭学の発展 ↓ 寺子屋の増加 ↓ 国学の発展	蘭学の発展 ↓ 寺子屋の増加 ↓ 国学の発展	清	中国
		1716 徳川吉宗による享保の改革(俟約)(公事方御定書)				
	商品作物の生産(綿花・紅花など) ↑ 幕府や藩も生産を支援					
	手工業から問屋制家内工業へ 貨幣経済の広まり					
19	江戸	田沼意次の政治(商業重視)	蘭学の発展 ↓ 寺子屋の増加 ↓ 国学の発展	蘭学の発展 ↓ 寺子屋の増加 ↓ 国学の発展	清	中国
		82 天明の飢きん ~ 87				
	百姓一揆・打ちこわし					
	87 松平定信による寛政の改革(農業重視)(俟約)					
19	江戸	1825 異国船打払令	蘭学の発展 ↓ 寺子屋の増加 ↓ 国学の発展	蘭学の発展 ↓ 寺子屋の増加 ↓ 国学の発展	清	中国
		33 天保の飢きん ~ 39				
	37 大塩平八郎の乱					
	41 天保の改革					

1) 時代の特徴を考えるにあたって、次の作業を行って、あなたの年表を完成させよう。

- ① 政治や国際関係の変化で重要であると考えられる出来事に赤いマーカーを、生活や社会の様子について重要と考えた出来事には黄色いマーカーをつけよう。
- ② 「章の問い」に対する考えをまとめるうえで、大切だと考える出来事を書き足したり、関係のある出来事どうしを矢印で結んだりしよう。

2) 地図中の[あ]~[か]の空欄に入るものを、年表内の下線A~Fから選ぼう。



節の振り返り

思考・判断・表現

それぞれの節の学習を振り返って、「節の問い」に対するあなたの考えをまとめよう。

節の問い

- ① 1節 ヨーロッパの国々による世界進出は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか。 p.106~113
- ② 2節 全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか。 p.116~123
- ③ 3節 江戸幕府はどのようにして全国を支配したのだろうか。 p.124~131
- ④ 4節 なぜ江戸時代に産業や経済が発達したのだろうか。 p.136~145
- ⑤ 5節 なぜ幕府はさまざまな改革を行ったのだろうか。 p.146~153



## 章の振り返り

タイムトラベルを活用した振り返りから、「章の問い」に対するあなたの考えをまとめよう

思考・判断・表現

### 1 タイムトラベルを活用して振り返ろう。

タイムトラベル「⑦安土桃山時代」「⑧江戸時代」を見比べて、大きく変化したことや、重要だと感じたことを見つけよう。また、なぜそう考えたのか、根拠も踏まえて説明しよう。

タイムトラベルを見比べる際は、キーワードを設定し、見方・考え方を働かせよう。



例えば「統一政権」をキーワードにすると、こんなことに気がつくね。

見方・考え方

見方・考え方 巻頭 8

例えば

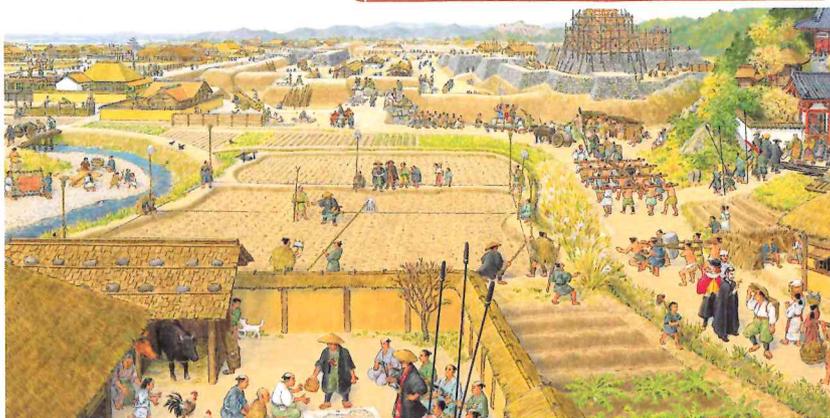
**比較** 農具や農作物の違いに着目しよう

「⑦安土桃山時代」と「⑧江戸時代」の絵を見比べて、百姓たちが使っている農具や、育てている農作物はどのような違いがあるだろうか。

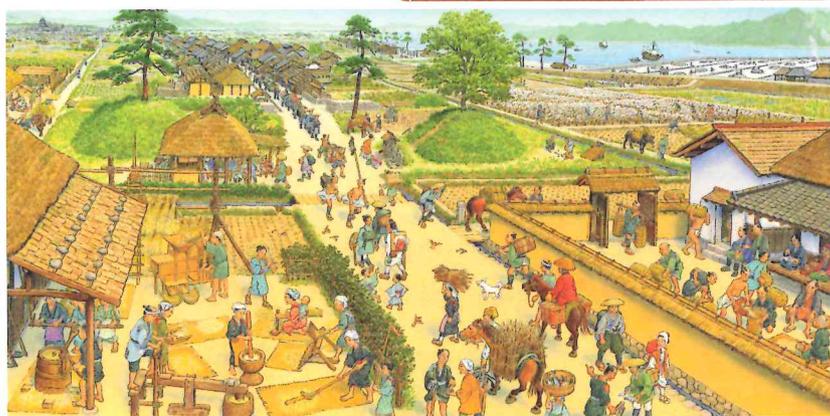
**相互の関連** 武器をもつ人々が変化した背景に着目しよう

p.90～91の「⑥室町時代」や、「⑦安土桃山時代」、「⑧江戸時代」で、武器をもっている人々が変化していることは、統一政権の誕生とどのように関連しているだろうか。

p.114～115 タイムトラベル⑦安土桃山時代



p.134～135 タイムトラベル⑧江戸時代



### 2 ほかに人と話し合っ「章の問い」を考察しよう。対話

思考ツール 巻頭 9

①で見つけたことや左の年表にマークしたこと、統一政権の誕生による社会の変化を考えるにあたって重要だと感じたことについて、あなたの考えを整理しよう。例えば右のように、それぞれの事項がどのように関連するのかを整理して考えよう。

グループになり、整理したなかから特に大きな変化だと感じたこととその理由を発表し、意見交換をしよう。

発表にあたっては、「節の振り返り」を参考にして、そのことの背景や原因、結果や影響も踏まえよう。

グループでの話し合いで気づいたことを踏まえ、「章の問い」に対するあなたの考えをまとめよう。

重要だと感じたこと



「章の問い」に対するあなたの考え

Blank box for writing thoughts on the chapter question.

### 3 時代の特色を考察しよう。 **思考・判断・表現**

①これまでの考察を踏まえて、近世はどのような時代だったかを、あなたの言葉でまとめよう。

**近世の特色**

○ 近世は、 [の] 時代である。

○

○ なぜなら、

○

○ [だ] からである。

②上でまとめたあなたの考えを、タイムトラベルを活用して、発表しよう。



### 「これからの社会を構想しよう」(→p.307) への準備



#### 現在との つながりを考えよう

近世の学習から、現在の社会と共通していると感じたことは何か、また、大きく異なっていると感じたことは何か、右の視点を参考に話し合ってみよう。その際、タイムトラベルも改めて見返してみよう。

#### 視点

- ・ 特産物の生産
  - ・ ひな祭りや端午の節句などの行事
  - ・ 印刷物の普及
- など

#### SDGsとの つながりを考えよう

コラム「未来に向けて」や本文、タイムトラベルなどから、地球的な諸課題と関連していると感じたものを探し、SDGsの17の目標のうちどの目標とつながっているのか、ほかの人と話し合ってみよう。

江戸時代には、資源を大切に使う習慣が根づいていたね。教科書ではどのような取り組みが紹介されていたかな。

12 つくる責任  
つかう責任



### ● 「学習する時代の見通し」(→ p.105) に戻ってみよう **主体的な学び**

章のはじめにあなたが立てた予想から、あなたの、この時代に対する考えはどのように深まっただろうか。章の学習を通じて感じたことや、さらに深めたいと思ったことを、下の「振り返り」に書いてみよう。

#### 章の重要語

- 節や章の問い、時代の特色をまとめる際に使用した用語に✓をつけよう。
- 香辛料 (p.108)
- 植民地 (p.111)
- 太閤 (p.117)
- 百姓 (p.118)
- 旗本と御家人 (p.125)
- オランダ風説書 (p.129)
- 朝鮮通信使 (p.129)
- 蝦夷地 (p.131)
- 五街道 (p.140)
- 浮世絵 (p.145)
- 貨幣経済 (p.146)
- 商品作物 (p.147)
- 打ちこわし (p.148)

#### 振り返り

- 章の問い：学習を通して考えをまとめることが
  - よくできた できた あまりできなかった
- 時代の特色をまとめるうえで有効だった「見方・考え方」
  - 時期や年代 推移 比較 相互の関連
- 「学習する時代の見通し」から考えが深まったこと
- 章の学習を通じて感じたこと・さらに深めたいと思ったこと